



四万十つるの里づくりの会 令和3年度取り組みダイジェスト

地域の方々の協力、セブン-イレブン記念財団、(一社)四国クリエイティブ協会、(株)建設マネジメント四国からの助成を得て、以下の活動を行いました。「四万十川自然再生事業」を実施している国土交通省とも連携して取り組みました。



取り組みの様子は
ホームページで
公開中!

<http://www.nakamura-cci.or.jp/doc/tsuru/>



令和3年

年間を通じて

江ノ村地区でのツルの餌場・ねぐらづくり

【実施内容】江ノ村地区の休耕地を借り上げて、地元で農業を営む会員に稲作を行ってもらうことで水田の管理を行いました。稲刈り後のツル渡来時期(秋～冬)には、ツルがねぐらとして利用できるような水田に水を張りしました。

7月

夏の「ツルの自然体験学習会」



↑東京とWEBで接続した授業

日時 ■ 7月6日(火) 10:30~12:00
場所 ■ 四万十市立東中筋小学校
参加者 ■ 30名(東中筋小学校6年生10名、東中筋中学校1年生3名、その他スタッフ等)
共催 ■ 国土交通省中村河川国道事務所
【実施内容】子どもたちに、四万十市に越冬に来るツルの生態や当地での越冬地づくりの取り組みなどを紹介しました。また、秋に予定しているオンラインでの学習会の練習として、東京の鳥類の専門家とネット接続し、ツルの越冬地分散化の必要性などについて勉強しました。

10月

秋の「ツルの自然体験学習会」

日時 ■ 10月29日(金) 9:35~12:00
場所 ■ 江ノ村地区、四万十市立東中筋小学校
参加者 ■ 54名(東中筋小学校6年生10名、東中筋中学校2年生5名、鶴荘学園8年生13名、その他スタッフ等)
共催 ■ 国土交通省中村河川国道事務所

【実施内容】子どもたちは、昨年度ツルを呼び寄せることに成功したデコイ(模型)を、江ノ村地区の水田に5体設置した後、学校に戻って鹿児島県出水市の鶴荘学園の子どもたちとオンラインで学習成果を発表し合いました。東中筋の子どもたちは、越冬地づくりのあゆみや学校の近くに飛来するツルの行動などを紹介しました。鶴荘学園の子どもたちは飛来状況調査やボランティアガイド、ツルモチーフのお菓子の開発などの取り組みを紹介しました。

鶴荘学園の子どもたちとモニター越しに記念撮影



↑デコイの設置



↑東中筋の子どもたちの発表



地元意見交換会

実施日 ■ 楠島地区10月9日(土)、森沢地区10月24日(日)、間地区10月28日(木)
共催 ■ 国土交通省中村河川国道事務所

【実施内容】例年ツルが飛来する地域の主に農家の皆さんに集まっていただき、これまでの取り組み内容等を説明し、ご意見をお聞きしました。参加した方々からは、農業を営む者としての率直な意見、よりよい餌場環境にするための提案などをいただきました。

森沢地区での実施状況



啓発看板の設置

【実施内容】10月20日(水)、ツルの渡来シーズンを前に、高知野鳥の会と共に、森沢地区に新しい看板を設置しました。



会報「四万十つるだより」

地域の回覧やツルの自然体験学習会等の行事で配布して当会の活動を紹介します。継続的に発行しています。本年度はVol.27を2月10日(木)に発行しました。

11月

小冊子『四万十市のツル』刊行

【実施内容】11月24日(水)、四万十市に飛来するツルの生態や保護活動について、子どもたちにもわかりやすく紹介した小冊子を刊行しました。翌25日(木)には、中平四万十市長を訪問し、市内の全小学校の5・6年生や東中筋中学校の生徒さんへの配布、一般の方向けとして市役所への設置などをお願いしました。



↑市長訪問

第13回 四万十つるの里祭り

日時 ■ 11月27日(土) 10:00~14:00
場所 ■ 四万十市立東中筋中学校
来場者 ■ 約1,000人
後援 ■ 四万十市、四万十川自然再生協議会
助成支援 ■ (一社)四国クリエイティブ協会、(株)建設マネジメント四国

【実施内容】お天気に恵まれ、会場は、子どもたちのストリートダンスや和太鼓の演奏などで気分を盛り上げる人、野草がゆや鮎めしなどの四万十の味覚を楽しむ人、中筋川流域に飛来するツルの映像を熱心に眺める人などでにぎわいました。「ツル観察バスツアー」では、江ノ村箇所の水田でのんびり餌をついばむツルの群れを観察できました。

ツル観察バスツアー



←会場のにぎわい

令和4年

2月

第3回 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会(会長が委員として参加)

日時 ■ 2月14日(月)
場所 ■ 四万十市社会福祉センター一会議室
参加者 ■ 23名
事務局 ■ 国土交通省中村河川国道事務所

【実施内容】ツルを指標とした生態系ネットワークの形成に向けて、鹿児島県出水市のラムサール条約湿地登録までのあゆみについて学び、四万十市での今後の展開について意見を交わしました。

※四万十川流域生態系ネットワークの取り組みへの参画

当会の会長及び会員の一部は、個人として四万十川流域生態系ネットワークのワーキングにも参加し、より具体的な取り組みについて知恵を出し合い、行動しています。

【本年度のワーキングでの検討内容】

- ・生態系ネットワーク全体構想の短期目標の達成に向けた具体的な取り組みの検討
- ・「四万十ツルの観察マナー」の作成・公表
- ・農産物の付加価値化や他地域の事例について学ぶ意見交換会の開催



↑四万十ツルの観察マナー

※この資料の作成にあたっては、夕部眞一氏(四万十つるの里づくりの会)及び国土交通省中村河川国道事務所から写真を提供していただきました。